

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790400032		
法人名	有限会社 アーバン・エステート		
事業所名	グループホーム ごえくの里		
所在地	沖縄県沖縄市越来3-11-20		
自己評価作成日	平成23年8月5日	評価結果市町村受理日	平成23年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790400032&SCD=320&PCD=47>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1階
訪問調査日	平成23年 9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、入居者も職員も自分の家族のように過ごしている。入居者其々の能力に応じた役割分担を行い日々過ごしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、法人所有の建物に地域密着型サービス事業所の一つとして、2階部分に開設している。ホーム周辺には住宅が多く存在し、地域を散歩する時にはお互いに声を掛け合い、住民と入居者や職員との間に馴染みの関係を育んでいる。入居者同士が互いを思いやりながら穏やかに過ごし、掲示物の作品一つ一つを職員と役割を分担し協働で製作に取り組んでいる。職員を育成する為に、勤務体制の調整や管理者自らの指導やフォロー等で環境を整え、入居者や家族を始め、地域のニーズにも対応できる職員の資質向上に繋げるよう研修への参加を増やしている。また、入居者や家族の意向を尊重し、ホームとしてできることは関係機関を通じて連携先を模索し、可能な限りの支援体制で応えている。入居者一人ひとりに合わせた活動支援(体操、歩行、内服の確認表、練習表等)を作成し、生活状況(ADLや身体状況)を把握しながら、入居者が役割をもって過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの特徴をふまえた理念を揭示し職員全員で意識化している。	理念は、開設当時に職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえ作成し、さらに、4つの基本方針として具体化し実践している。管理者は、日頃のケアの中で、理念について振り返り、職員一人ひとりと話し合いを持ち理解できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーや近くの保育園へ出かけ、交流を持つように心がけている	近隣の保育園へ月1回入居者と職員が行事に招かれ参加している。また、園児達が散歩の途中に立ち寄ったり、近隣の方も遊びに来て、利用者とは会話を楽しんでいる。管理者は、婦人会の集まりにも参加し、認知症について相談を受けた場合は、解りやすく説明等をし理解が得られるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会で地域住民があるまる時間帯に訪問して、談話しながら、認知症の特徴等話し合いを持つ様にしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能と合同で行い、入居者や家族保険者の意見を取り入れながら状況報告等を行い、助言を頂いている	運営推進会議は奇数月の第3水曜日に開催し、利用者、家族、市担当者、地域代表者等が参加している。事業所の運営や活動状況を報告し意見や情報交換をしている。外部評価についても評価結果や目標達成計画について説明し、資料等を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保険者を訪問して入居者の状況報告を行っている	管理者は市窓口で、福祉に関する手続きや法令に関する質問等で情報収集をしている。市担当者からは、台風時(浸水等)の受け入れ体制について問い合わせがある。今回、東北の被災者の受け入れの要請があり、職員として1カ月採用したケースがある等、市との協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任研修や他施設での研修に参加し、情報を職員へ共有しながら日々の介護にいかせるようにしている。玄関の施錠は夜間のみ行っている昼間は自由に行き来ができるようにしている	事業所として身体拘束廃止の方針を掲げ、職員も研修に参加し理解している。一人で外出する入居者に対しても制止せず、側から見守り、一緒に散歩する等を実践している。家族にはリスクについて説明し話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間の言葉等お互いが注意し合い、又入居者が席などでトラブルにならない様に席を交換したりしている。普段から仲良く入居者もお互い声かけながら楽しく過ごしている		

沖縄県(グループホームごえくの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で職員の共有を図っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や問い合わせの時に本人や家族が納得するように利用料等は計算を行いながら説明している。又施設の特徴も説明しながら理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が何時でも相談できるように、ゆっくりと会話するように心がけており、又家族の面会があるときには入居状況や身体状況など説明するようにしている	職員は、入居者から日頃の暮らしの中で、意見や要望が伝えやすいように心がけている。衣類や嗜好品の購入希望に職員が同行し対応している。家族からは面会時や電話連絡の際に、入居者の状況を話し、意見や要望を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の状況変化などで業務や運営の変更がある時はその都度話し合いを持つようにしている	職員は職員会議(月1回～2回)を意見等の発言の機会としている。朝食時の入居者3人への食事介助が夜勤者1人では厳しい状況との意見に対し、勤務シフトに早出を増やし職員の負担軽減に反映させている。職員の資格取得に必要な研修等に勤務調整をして参加できるよう配慮している。	
12		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自己評価票を参考にし、勤務状況ややりがいや思い等を把握して向上できるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者と管理者は施設内外の研修や資格が取れるように勤務調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	普段から関連事業所以外の方とも交流を持ち情報を職員へも報告しながらサービスへ反映させている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みや見学相談時に本人の身体状況や環境を把握しながら、本人が困っている事、悩んでいる事等聞き取り、どうしたらいいか、一緒に考えるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや見学相談時に本人の身体状況や環境を把握しながら、家族が困っている事、悩んでいる事等聞き取り、どうしたらいいか、一緒に考えるようしており、施設で何ができるか、検討するようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	空室が無い場合は、本人の状況を考慮しながら他のサービス内容や施設の紹介など行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は何でも「やってあげる」との意識は持たず一緒に行うとの意識をもって過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問したら、ホールまたは居室でプライバシーを保護しながら本人の生活を状況を見てもらったりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の状況に合わせて外出や外泊は自由に行ってもらい、積極的に家族や友人にも訪問してもらえるように雰囲気作りと、声かけを行っている	入居者の日常生活で、聞き取りしたことや家族から聞き取った内容を、入居者一人ひとりの「生育歴・生活歴表」を作成し、馴染みの関係の把握に努めている。入居者は家族と月に1回ペース内のレストランに行ったり、以前通っていたデイサービスに職員と訪問する等馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の能力に合わせた役割を持ちながら、他の方にも目が行き、お互い協力しながら生活している		

沖縄県(グループホームごえくの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者は他の施設や医療機関に入院しても、面談や家族に連絡行い常に相談ができるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向が確認できる方は本人へ、困難な場合は家族や本人の行動や表情から推測する	入居者の「月に1回は帰宅し家族と一緒に過ごしたい」との希望に家族と話し合い実現している。正月には泡瀬の「ビジュアル」を参拝したいとの希望があり、2日間に分け入居者全員参加している。把握が困難な場合は、利用者の表情や態度から汲み取り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や毎日の会話に中で、今までの生活ぶりを聞き出すようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や入居者の現状を把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活状況や家族の意向を確認しながら担当者会議または面会時等話し合い介護計画を作成している介護支援専門員だけでなく、職員も会議には参加して皆で出来るようなケア作りを目指している	入居者や家族の意向を踏まえて介護計画を作成している。家族から「昔、本や絵本が好きだったので読ませてみては？」との提案を介護計画に反映させ、読書(絵本や新聞等)を入居者の日課として支援している。介護計画は入居者の状態の変化に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況を個別に記入しながら、問題があるときには見直しができるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の介護力によって買い物や病院受診など個々に合わせたサービスに取り組んでいる		

沖縄県(グループホームごえくの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物だけでなく、本屋や神社などにも行ったりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が主治医へ上手く伝えられない方は、情報提供書を活用し、常に入居者の状況は主治医へ伝えられるようにしている	入居前のかかりつけ医を家族支援を基本に継続し、対応が厳しい場合や緊急時等は職員が支援している。入居者別に情報(血圧、身体状況等のデータ)や生活状況(文書のみ)を提供し、医師より返事を得ている。協力歯科医院から口腔ケアの指導を入居者の状況に合わせ(月1回や週1回等)受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴の時や、状況の変化がある時は看護師が申し送りノートに記入したり病院受診の付き添いして、身体的管理を行いまた、他の職員も把握ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時点で情報提供を病院側に行い、又面会時に病院等の看護師や相談員へ状況確認したりしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段から関連事業所以外の方とも交流を持ち情報を職員へも報告しながらサービスへ反映させている看取りや重度化した場合はどうしたいか確認行っている。重度化した場合は、医療機関や保険者と連絡取り合い施設で出来る事を家族に説明してサービスに繋げている	ホームの重度化指針や重度化した場合の事前確認書は利用開始時や入居者の状態に合わせて説明し、「看取り介護についての同意書」で家族に同意を得ている。職員の不安の声には、管理者が看護や介護について3～4人に個別に意見を確認し、訪問診療や訪問看護の医療体制を整えた医療機関と連携して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは常に関覧できる場所におき、状況に合わせてどうするか等、その都度確認は取っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルは何時でも閲覧できる場所におき、連絡網を元に避難ができるようにしている台風などで停電する時には携帯コンロを利用できるようにしている	建物内の火災報知器・火災通報等の設置やIHコンロ、避難経路図、避難用階段等の設備は整えている。ホームとして自主訓練を今年実施しているが、消防署協力の総合訓練は実施していない。	避難訓練は年2回の実施が望まれるので、消防署協力の総合訓練を法人内事業所と連携して取り組んでほしい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人権を尊重し、職員間の言葉使い等も注意しながらサービスを行っている	入居者から「入浴時の介助やトイレも一人で大丈夫」等の声には、声掛けや見守りで安全の確認とプライバシーに配慮しながら対応している。人格を尊重し入居者が選択できるような言葉掛け(熱いお茶ありますがどうしますか?)に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方には耳元で話かけ、意思疎通が困難な方には表情等から察知して、自己決定ができるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	其々の基本がはあるが、入居者のその日の状況を考慮して対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みを把握して、本人が自分で出来なくなっても少し協力して、身だしなみは損なわない様に工夫している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを考える時、利用者の好みや季節にあった物を工夫している。又配膳やかたづけ等は可能な方は自分で行っている。	昼食は法人内別事業所からの配食を利用し、入居者の状態に合わせた形態(量やミキサー等)で職員と一緒にしゃべりしながら食卓を囲んでいる。入居者はエプロンを身に付けて、食後の食器洗いの作業を職員と分けて担っている。法人で合同の外食(バーベキュー)の予定があり、魚より肉を好まれる入居者が心待ちにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患に合わせた量にしており、形態もミキサーやキザミにしたり、出来るだけ自分で摂取ができるような工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は全員が歯磨きや口腔ケアを行い、歯科医院からの口腔ケアの指導も受けている		

沖縄県(グループホームごえくの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表本人の動きで排泄パターンを把握して定期的にトイレで排泄ができるようにしている	排泄は毎日、入居者の排尿、排便を確認し、パターンを把握して誘導し2人がパット外しに繋げている。医師と相談しながら水分摂取量の少ない入居者に尿臭を意識づけさせ、水分摂取量の改善に取り組んでいる。夜間はポータブルを使用したり、入居者によっては定時の誘導で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認は毎日行い、排便が無い時には、水分の確認や内服でスムーズに排泄できるように管理している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	羞恥心があり個別で入浴行い、時間帯も決めず本人に合わせた時に入浴ができるようにしている	入浴は1日置きとしているが入居者の希望でほぼ毎日午前中や夕方に支援し、冬場は湯船も利用している。足浴を循環が悪い場合や、冬は夜寝る前にフローアで支援している。男性の介助を拒む場合は女性で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して睡眠が取れるように、採光や室温もこまめに調整しながら、不眠の方は主治医へ連絡して睡眠剤も利用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	文献をカルテに添付しいつでも確認が取れるようにしており、臨時内服や追加の内服等も申し送りノートに記録して職員全員が把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた行事に出かけたり、役割の中で楽しみが持てるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブや散歩しながら地域の風景を観察し、個々にあった希望や楽しみが持てるように工夫している	入居者は階下へ降りて近くを散歩したり、ベランダへ出て外気に触れている。職員と食材の買い出しに近くの店や、ドライブでは海等へも出かけている。また、入居者の嗜好品や衣類の買い物にも一緒に外出し支援している。	

沖縄県(グループホームごえくの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得ながら、小額の小遣いを所持して嗜好品や衣服など買い物を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて家族に電話をかけたたり、年賀状を出したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはイスやソファを置き、自分がかつろげる場所で休んでもらっている。夕方西日が入る食堂はカーテンを閉めクーラーの調整や朝は朝日や風が入るように窓を開けるなどの工夫を行っている	ホーム内は収納スペースの確保が厳しい状況だが、入居者の生活移動範囲には問題はなく明るくゆったりとしている。共用空間のトイレや浴室は車いす対応にも配慮した広さで、廊下奥の洗面化粧台の設置は入居者が人目を気にせず整容等に利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は気の合う人同士が座れるように配置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が利用していたダンスやベッドを持ちこみなれた家具の中で生活する事で入居者は落ち着いている	居室には空気清浄器、足浴器、掃除器具等の他、嗜好品のコーヒーセットや姿見の鏡等持ち込みにも特徴があり、入居者個別の雰囲気作りを支援している。また、入居者が家族と一緒に床に御座を敷き和風に居室を模様替えしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何度でも同じ話を繰り返すが、毎回本人が分かるように説明行い、認識できるように工夫している。出来ないといっても行えば出来る事もあり、その時は一緒に喜び、又行うという意欲が持てるように工夫している		